

# はるか

ゆたかな暮らしの  
情報紙

令和5年冬号

「ありがとう」を花せるお葬式  
東京 千葉 埼玉 神奈川

株式会社 孝行舎

— お見積り無料 ご相談随時受付 —

本社：東京都足立区中央本町 4-17-2  
葬儀サロン：東京都足立区中央本町 1-19-2  
赤坂営業所：東京都港区赤坂2-14-5 Daiwa 赤坂ビル7階

0120-81-5548

孝行舎 検索

深夜・早朝でもご遠慮なくお電話下さい  
24時間・365日寝台車がお迎えにまいります

- すこやか「食」の旅————バター
- ご存じですか？————「手塚治虫」
- 伝統のモノ————鉛筆
- 花ものがたり————エリカ
- 生活の中の仏教語————諦め
- 仏事と葬儀の知識————通夜振る舞い

すこやか  
「食」の旅

## バター



バターは、従来の和食には馴染みのない味わいであったことから、今も私たち日本人には、どこか洋風のイメージがあるのではないのでしょうか。事実、ひと昔前まで「西洋かぶれ」を指してよく使われた「バター臭い」の「バター」は、「バター」のことです。しかし、日本に「バターらしきもの」が初めて伝えられたのは、遥か昔6世紀の頃だといわれています。

### ◆仏教伝来とともに

日本最古の乳製品といわれる「酥（蘇）」は、現在のバター（あるいはチーズ）に類するものと思像され、牛乳を利用するこの文化は、仏教とともに日本に渡来したといわれています。

平安時代、醍醐天皇（在位897年～930年）の時代には、諸国の牧場で作らせた酥を貢ぎ物として集める「貢酥の儀」が催されたという記録も残されています。しかし、当時の酥は高貴な人びとの滋養薬として作られたもので、庶民の食文化として広まることはなく、やがて朝廷の力が衰えるとともに、日本の「ミルク文化」も一時姿を消すこととなります。

### ◆経典にも記された「バター」

バターの起源は定かではありませんが、メン

ポタミアや古代インドですでにそれらしきものを食していた記録が残っているとされています。

悟りを開かれる前、厳しい修行で衰弱したお釈迦さまを救ったのは、村娘が供した牛乳の粥だったというお話はよく知られていますが、『涅槃経』〈正式には『大般涅槃経』／お釈迦さまの入滅（涅槃に入ること）を通してその意義を問う経典の総称〉などにも、酥などの乳製品についての記述が見られるそうです。

因みに古代インドでは、牛乳から作られるもの（今でいうヨーグルトやバター、チーズなど）の味を、その深みに応じて乳味・酪味・生酥味・塾酥味・醍醐味の5段階に区分し、仏教においてこの五味は、修行の深まりを示すたとえとして用いられ、「醍醐味（無上の美味）」こそが、最上の悟りの境地を表すものと説いています。

### ◆純正バターの誕生

一時消滅した日本のミルク文化は、西洋に倣うべく広く畜産を奨励した明治政府によって復活し、日本で本格的にバターの製造が始まったのは、1885年（明治18年）のことです。

現在のバターには、良質の乳脂肪と豊富なビタミンAなどが含まれ、この乳脂肪は食用油脂の中でも最も消化が良く、胃腸の弱い方も安心して食べられます。コレステロール値を心配してバターを控える方もおられますが、例えば、食パン1枚に塗るバターは約10gとしてコレステロール量は21mg、この値は卵1個当たりのコレステロール量の1/10に過ぎません。



このことを手塚さんは「マ

私たちは、歴史上の人物など一般によく知られている人について「きつこういう人だったのだ」などと、思い込んでしまっている場合があります。しかし、ときには「こんな意外な面もあったのか」と驚いたり、「私たちとあまり変わらないじゃないか」と、その暮らしぶりに親しみを覚えたりすることもあります。

\* \*

今回は、漫画家・手塚治虫についての話題をご紹介します。

# ご存じですか? 手塚治虫

## ■いじめられたっ子

手塚さんはある講演のなかで「私は子ども時代、いわゆるいじめられたっ子」でした」と述べています。学校から帰ると「お帰り」の代わりに「今日は何泣かされたの?」とおかあさんに尋ねられ、手塚さんは指を折って数えては、ペンをかきながらその回数を答えるのが日常だったそうです。

すると、おかあさんは決まって「我慢おし」「堪忍をなさい」と言うだけで、過保護になつて手塚さんを甘やかすことはなかったといいます。

## ■マンガの功德

いじめられっ子の息子に「忍耐」を教えたおかあさんは、幸いなことに、マンガは好きなだけ読ませてくれ、手塚さんの子ども時代、家には

200冊ものマンガの蔵書があったそうです。そのことはクラスでも有名で、日曜になると、いじめっ子も含め、クラスメートがマンガを読みながらと、いじめっ子も含ま、クラスメートがマンガを読みながらと、いじめっ子も含ま、

もなくなつて仲良しも増えていったといっています。

マンガの功德です。マンガ大明神さまさま」と語っています。

## ■おかあさんの一言

もちろん、手塚少年はマンガを読むだけではなく、9歳のときにすでに、丸坊主になった自分をモデルにした『ピンピン生ちゃん』というマンガを描いています。

小学校5年生の頃にはノート1冊分の長編マンガを描いてクラスで閲覧し、職員室でも評判になります。担任の先生からも「もうおまえは好きなだけマンガを描いていい」とお墨付きをもらい、以来、学校でマンガを描くのも「天下御免」になつたといっています。

因みに、成人してから手塚さんが進路について大いに迷っていたとき、一言「マンガ家になんなさい」と言ってくれたのは、おかあさんだったそうです。

## ■ペンネームの由来

ところで、本名の「治」に「虫」をつけて「治虫」にしたのは、ひとえに手塚さんが虫好きだったからです。小学5年のとき、科学が大好きな友だちに昆虫図鑑を見せてもらったことをきっかけに、手塚少年は昆虫採集に明け暮れます。そして、図鑑で目にした「オ

サムシ科の虫たちの姿が、首と胴の長い自分にそっくりだと親近感を抱き、自分も「治虫(おさむし)」と名乗るようになります。そして、学校の作文などの課題にも、この名前を書いて提出しては先生に叱られていたといいます。

ペンネームの「治虫(おさむし)」を(おさむ)と読ませるようになったのは、マンガ家としてデビューしてからのこと。「手塚治虫氏」などと表記した際、(てづかおさむし)ではどうも読みづらいとの指摘があったからだとはいわれます。

## ■手塚マンガのテーマ

1928年(昭和3年)に生まれた手塚さんは、暗い時代にあつても恵まれた家庭で子ども時代を過ごしますが、中学時代には工場に勤労動員され、空腹と空腹のなかで青春時代を迎え、多くの友人を失います。

ですから、終戦の日には「思わずパンザイをし、涙をこぼしました」と語っています。そんな手塚さんの描くマンガの永遠のテーマは、人命だけでなく命あるものすべての「生命の尊厳」だといわれています。

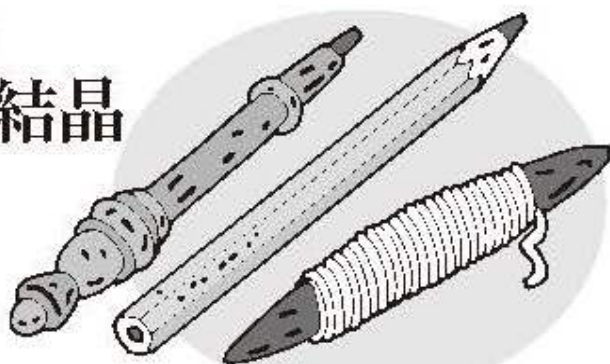
手塚さんが没したのは1989年(平成元年)、享年60でした。

# 伝統のモノ

## 鉛筆



# 先人の工夫の結晶



### 筆記具の誕生

「そういえば最近使ったことがないなあ」という方が多いのではと思われる鉛筆。でも、たとえば小学校入学当時に振り返って、筆箱に入った真新しい鉛筆を懐かしく思い出される方もおられるのではないのでしょうか。

人類は、まだ文字をもたない以前から、洞窟の壁面に火にくべた棒の先などで絵を描き、岩などに尖った石で記号のような模様を彫りつけたりしていました。そして、文字を使うようになってからは、日常の出来事などを記録するための道具「筆記具」を工夫するようになります。

スタイラスといえば現在では、携帯情報端末のタブレットなどを操作する用具として知られています。しかし、もともとは文字などを彫りつけるために先を尖らせた用具（材料は動物の骨など）のことをいいます。

古代メソポタミアでは、スタイラスを使って粘土板に文字を彫りつけ、また古代エジプトでは、筆の茎を斜めに切ったペン（これもスタイラスの一種）でパピルスに文字を書いていました。因みに、その際に必要をインクは、煤と植物（アラビアゴム）の樹液を混ぜたものを利用していたといわれます。

### 黒鉛を芯に

現在の鉛筆に近いものが誕生するきっかけになったのは、16世紀中頃、イギリスで良質の黒鉛が発見されたことでした。

黒鉛は、ダイヤモンドと同じ炭素の結晶で「鉛」の字が使われているものの鉛とはまったく無関係な鉱物です。この鉱物は、紙などにこすりつけると黒い色を残すことから、文字や図を書く材料として使われるようになります。しかし難点は、黒鉛をそのまま持つと手が黒く汚れてしまうことでした。

そこで、棒の形に切った黒鉛のかけらを芯にして木にはさんだり、紐を巻きつけたりして使うようになり、やがて、木の軸に細い穴を開け、そこに細い棒の形にした黒鉛を差し込んだものが作られるようになったのです。

### コンテの功績

美術のデッサンに使われる画材に「コンテ」があります。この名称は、発明者（化学者で画家でもあったフランス人ニコラス・ジャック・コンテ、1755年〜1805年）の名前をそのまま使用したもので、この人物こそ、現在の鉛筆の芯の生みの親といえます。

ます。

コンテ以前の芯は、黒鉛を細く切ったり、黒鉛の粉を硫黄などで固めたものでした。しかしコンテは、黒鉛の粉末に粘土を混ぜて高温で焼くという方法を発明。丈夫でかつ粘土の割合を調節することで芯の硬さや濃さを変えることも可能にしたのです。コンテが発明した芯のこの製造方法は、基本的に現在も変わっていません。

### 日本の鉛筆

明治時代になり、僅かながら日本にも鉛筆が輸入されるようになります。が、日本人の一般的筆記具はまだ毛筆でした。日本製鉛筆の製造は、パリの万国博覧会（1878年／明治11年）で、初めて鉛筆を目にした真崎仁六などの長年の苦勞の末に始まりました。が、日本製鉛筆が外国製に負けない品質を誇るようになったのは、昭和30年代になってからのことです。

### ★ご存じですか？★

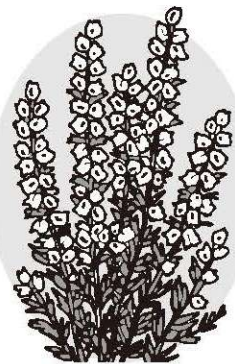
#### 「家康の鉛筆」

徳川家康の現箱の中に鉛筆が残されており、これがおそらく日本にある最も古い鉛筆だそうですが、由来の経緯は不明だといえます。



## 「エリカ」

日本に渡来して栽培されるようになったのは、大正の初めとも昭和の初めともいわれる「エリカ」



は、欧米ではクリスマスやイースターの切り花としても用いられ、その花色には白、桃、紅、紫紅色などがあり、花の形は壺形あるいは鐘形、葉は針状で堅く、杉の葉のように見えることから、日本ではハナスギと呼ばれることもあるようです。

また「エリカ」という名前ではピンとこないという方も、英語名の「Heath」（ヒース）なら、外国の小説などに出てくるので知っているという方もいらつしやるかもしれません。

風の吹きすさぶ荒野一面に生い茂るヒース（エリカ）は、イングランドやスコットランドの自然を象徴する情景でもあり、エミリー・ブロンテの有名な小説『嵐が丘』でもヒースは欠かせない要素となっています。

因みに英語のヒース (Heath) は、もともととは「荒野」を意味し、ヨーロッパではエリカがヒースに多く生い茂っていることから、その名で呼ばれるようになったといえます。

\*花言葉……「孤独」「寂しさ」など。

## 諦め

すべてがうまくいったとホッとしたのも束の間、うっかりミスですべてがひっくり返ってしまった……こんな事態に直面すれば、「何ごとも諦めが肝心ですよ」といくら論じられても、「どうにも諦めがつかない」のも無理からぬことかもしれません。

このように俗世間で使われる「諦め」は、どうにもならないことに捉われないで断念することを意味します。

一方、仏教でいう「諦め」は、我執から完全に解き放たれて真理を悟ることをいいます。お釈迦さまは、悟りの内容を「①人生は「苦」に満ちており（苦諦）、②その苦の原因は煩惱を「集」ずることにあり（集諦）、③この苦集を「滅」した境地が涅槃であり（滅諦）、④その涅槃に至るのが「道」である（道諦）」と、4つの真理に四諦に分けて説いています。

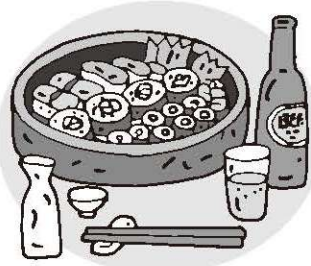
私たちも、ものごとを断念することとこだわりがなくなり、心安らかな境地になることがあります。見方によってはこれもひとつの「悟り」に通じるものかもしれません。



## 通夜振る舞い

通夜のあと、弔間に対するお礼と故人の供養のために、席を設けてもてなしをするを「通夜振る舞い」といいます。

その席に誘われた場合は遠慮をせずに受け、一口でも箸をつけるのが礼儀です。お清めの意味をこめてお酒も供されますが、あくまでも宴席ではないので、故人と関係のない話題に興



じることや、大きな声で話すことなどは慎みたいものです。また、通夜は本来、遺族や親族が故人と別れを惜しむ最後の夜であることを心にとどめ、あまり長居をせずに辞すようにしましょう。

通夜振る舞いの予定時間がすぎた頃、喪主あるいは親族代表、または世話役代表が通夜を滞りなく終えたお礼を手短に述べ、そろそろお開きにする旨を出席者に伝えます。

僧侶を通夜振る舞いの席に案内する場合は、上座についていただきますが、僧侶が出席を辞退された場合は「御膳料」と「御車代」をそれぞれ白封筒に入れて渡します。通常御車代は、送迎用の車を用意した場合でも同様にお渡しするようにします。

(※「通夜振る舞い」は、地方によって異なる場合もあります)